

発達障害概論

令和5年度静岡市ペアレントメンター・地域サポーター養成研修会
2023.7.22

愛知県医療療育総合センター中央病院子どものこころ科
あいち発達障害者支援センター 副センター長
愛知県中央児童・障害者相談センター 児童専門監
吉川 徹

1

今日のお話し

- 発達障害とは
- 発達障害を持つ子どもの家族支援
 - マンパワーを集める
 - 知識とスキル
 - 気持ちの支え

2

いわゆる「発達障害」

- 自閉スペクトラム症 ASD
- 注意欠如・多動症 ADHD
- (限局性)学習症 (S) LD

他にもチック症、吃音症などが含まれる。

「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。
(発達障害者支援法による定義)

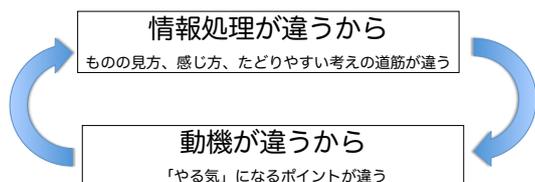
3

生まれつきの「脳」のタイプ

- ものの見方、感じ方、考え方についての、生まれつきの偏り
- おそらく脳の中での情報処理が、多数派の人たちと異なっている

4

発達障害をもつ子どもへの支援はなぜ難しいのか



5

自閉スペクトラム症

(自閉症スペクトラム障害)

- これまでいろいろ名前と呼ばれてきた。
- 自閉症、アスペルガー、広汎性発達障害……など

自閉症 特定不能の広汎性発達障害
アスペルガー症候群 定形発達

わけられないことがわかってきた

6

自閉スペクトラム症

- 自閉症の三つ組みの障害
- 社会性の障害
- コミュニケーションの障害
- 興味、関心の偏り（想像力の障害）

社会的コミュニケーション障害へ

7

社会的コミュニケーション、 社会的相互作用の困難

- 社会的、情緒的なやりとりが難しい
- 言葉を用いないやりとりが難しい
- 人との関係を作り、維持し、理解することが難しい

8

行動や興味の偏りやすさ

- 定型的、反復的な体の動き、物の扱い方や発話
- ルーチンや儀式の変えにくさ、柔軟性のなさ
- とても限られた、変わりにくい興味の持ち方
- 感覚の極端な敏感さ、鈍感さや、感覚的な刺激への強い関心

9

感覚の過敏・鈍麻

- 感覚
 - 視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚、温痛覚、前庭覚、深部覚
- 極端に敏感
- 極端に鈍感

10

自閉症の子どもの得意なこと

- 記憶すること
- 一度、習慣になったことを、手を抜かずに続けること
- 興味をもったことを、追い求めること

11

自閉スペクトラム症の根っ子

- 「人づきあい」が行動や制止の理由になりにくい
- 「好きなもの」が増えにくい
 - 「嫌いなもの」が増えやすい

12

自閉症の様々なタイプ

- 知的な発達スピード
- コミュニケーション障害の現れ方
- 対人関係のタイプ

13

知的な発達

- 「高機能」
 - 知的な発達の遅れがない
 - おおむね $IQ \geq 75 \sim 70$
- 境界線級知能 ($70 \leq IQ < 85$)
- 軽度～最重度の知的障害 ($IQ < 70$)

14

コミュニケーション障害の現れ方

- 言葉が出ない
- 言葉は使えるが、相互的な会話になりにくい。
- 流暢にしゃべれるが、一方的。
- 形式張ったしゃべり方、大げさなしゃべり方。

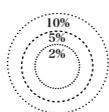
15

対人関係のタイプ

- できるだけ一人でいることを好むタイプ
- 働きかけがあれば他の人と一緒に過ごせるタイプ
- 自分から人に関わろうとするが、やり方がうまくないタイプ
 - 対人関係のタイプは固定したものではない

16

自閉スペクトラム症の「有病率」



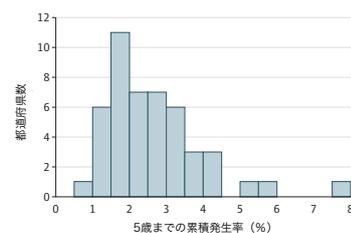
2% core Autism Spectrum Disorder
(自閉スペクトラム症中核群)

5% broad autism (phenotype)
(自閉スペクトラム症広域表現形)

10% Autism Spectrum without Disorder
(非障害性自閉症スペクトラム)

17

自閉スペクトラム症の累積発生率



多くの都道府県で5歳までに3%を超える子どもが、
自閉スペクトラム症の診断を受けている。

Jama Netw Open 4, e219234 (2021).

18

注意欠如・多動症

Attention Deficit / Hyper Activity Disorder

- 三つの症状領域
 - 不注意
 - 多動性
 - 衝動性
- 現在の表現形
 - 不注意優勢状態
 - 多動性・衝動性優勢状態
 - 混合状態

原則として4歳以上でなければ診断できない

19

不注意の症状項目

- (a) 学業仕事または他の活動中にしばしば綿密に注意することができない、または不注意な間違いをする (例: 細部を見過ごしたり、見逃してしまう、作業が不正確である)。
- (b) 課題または遊びの活動中に、しばしば注意を持続することが困難である (例: 講義会話、または長時間の読書に集中し続けることが難しい)。
- (c) 直接話しかけられたときに、しばしば聞いていないように見える (例: 明らかな注意を逸らすものがない状況でさえ、心がどこか他所にあるように見える)。

⋮

DSM-5, APA(2013)

20

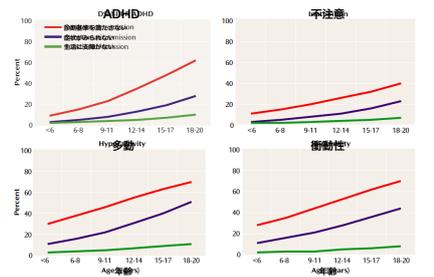
現在の現れ方 (表現形)

		不注意	
		6項目以上	0-5項目
多動 と 衝動性	6項目以上	混合状態	多動・衝動性優勢状態
	0-5項目	不注意優勢状態	正常 または 部分寛解状態

下位分類から現在の状態へ過去6ヶ月の症状で評価

21

ADHDの経過



Biederman et al. (2000)

22

ADHDの子どもの得意なこと

- 新しいことに取り組むこと
- 発想のゆたかさ
- 瞬発力・即応性
- 社交性

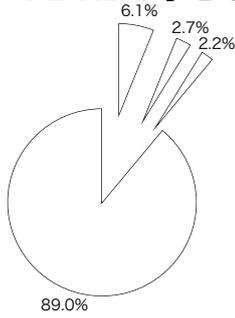
23

ADHDの根っ子

- 計画を立てて、立てた計画の通りに進めていくことが難しい
- 「将来」のご褒美が魅力的に感じられない

24

アメリカには ADHDの子どもはどのくらいいるのか？



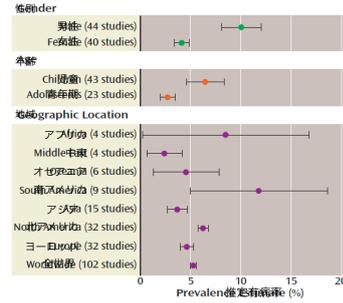
現在ADHDと診断されていて服薬している
現在ADHDと診断されていて服薬していない
ADHDと診断されていた時期がある
ADHDの診断を受けたことがない

アメリカ 4歳~17歳の児童
76,015人の養育者からの聞き取り調査

Visser et al. (2014)
JAACAP 53(1) 34-46

25

性別、年齢、国際比較



Polanczyk, G. et al. (2007) Am J Psychiatry, 164(6), 942-948.

26

ADHDの大人はどのくらいいるのか？

- 成人の有病率研究
 - 海外の研究のメタ分析 ... 1.2 - 3.2%
 - Faraone S. et al (2006) Biological Psychiatry, 60(10), 1081-1087
 - 国内の研究 ... 2.1%
 - 内山敏 他 (2012) 子どものこころと脳の発達 3(1), 34-42

27

「学習障害」

- 学習障害という用語は混乱している。
 - 各種の定義が混在している。
 - 文科省による定義
 - 医学による定義
 - 定義が歴史的に変化してきている。
- 定義には踏み込まないのがベター。

28

教育から見た学習障害

- 文部科学省の定義
 - 学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。
 - 学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

29

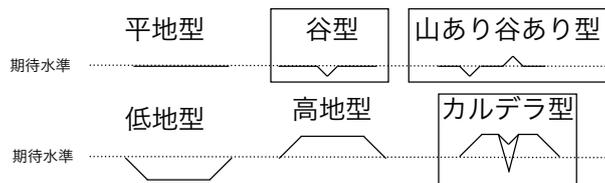
医学から見た学習障害

Specific Learning Disorder

- 限局的学習症
 - 読字の困難を伴うもの
 - 書字表出の困難を伴うもの
 - 算数の困難を伴うもの
- 言語障害

30

限局性学習症のイメージ



(限局性) 学習症の定義

- ・本人の年齢、知能、受けてきた教育に比べて到達度が低いこと
- ・それが学業成績や日常生活を明らかに妨げていること

31

学習障害の子どもの得意なこと

- 苦手でないこと

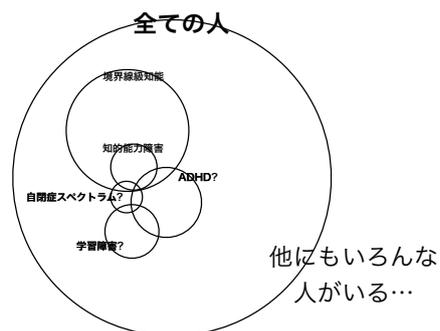
32

限局性学習症の根っ子

- いろいろあるけれど……
- 音韻処理の障害
- 「数」と「数字」の対応の困難

33

特別なニーズのある人はどれくらいいるの？



34

今日のお話し

- 発達障害とは
- 発達障害を持つ子どもの家族支援
 - マンパワーを集める
 - 知識とスキル
 - 気持ちの支え

35

優先順位を間違えない

支援計画

本人のアセスメント

家族のアセスメント

家族の価値観・余力・健康を視野に入れていないアセスメントはむしろ有害

36

発達障害のある子どもの 親への「期待」

- 子どもに「教える」
- 子どもの「やる気を支える」
- 子どもを「手伝う、代行する」
- 子どもの安全を守る

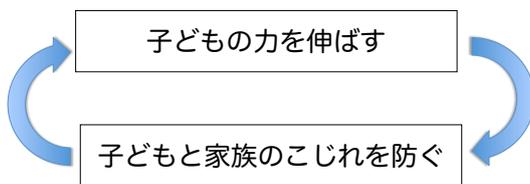
37

発達障害のある子どもの 親への「重荷」

- 子どもに「教えなければならない」
- 子どもの「やる気を支えなければならない」
- 子どもを手伝う、代行しなければならない
- 子どもの安全を守らなければならない

38

発達障害をもつ子どもへの支援は なぜ難しいのか



39

今日のお話し

- 発達障害とは
- 発達障害を持つ子どもの家族支援
 - マンパワーを集める
 - 知識とスキル
 - 気持ちの支え

40

発達障害のある子どものいる家庭に 求められるもの

- 周囲の人の理解と関心
- 大人の「人手」
 - 子どもに関わる時間
 - 家事の分担
 - 「手を抜く」ことも必要
- きょうだいへの配慮

41

とにかく「人手」を集めること

- 家族には「人手の集め方」がわからない
- 身近な支援者と相談しながら人手を集めていくこと
 - 父、祖父母、親族、他の保護者……

42

伝える時の原則

- 周囲への説明、支援の依頼は、できるだけ安定した時期に
 - 問題が予想されるとき
 - 小さな支援が動き始めた時
 - 目先の問題が収束したとき
- 1人ずつ落としていく
- 仲間が増えたら、みんなに説明してもいい

43

伝える時の原則

- 説明は一度では終わらない
 - 段階をおって伝えてゆく
 - ソフト・ディスクロージャー
 - 障害の名前は最後に
- 障害の説明ではなく、その子どもの説明を

44

伝える時の原則

- できないことだけを伝えるのではない
 - 苦手だけど、こうすればできるよ
 - これは苦手だけど、こっちは上手だよ
- 説明は症状ではなく、その根っこを
 - 「多動なんです」ではなく「見えた物が全部気になっちゃみたいなんです」
 - 支援の手がかりになるような「理解」

45

「仮に」理解して 「実際に」支援すること

- 支援の入り口はまず疑うこと
 - 支援を始める時に診断はいらぬ
- 最初の理解は「仮」でよい
- 実際に支援を始めることが大切



軽度発達障害のある子のライフサイクルに合わせた理解と対応—
「仮に」理解して、「実際に」支援するために (田中康雄著 学研)

46

父親を巻き込む

- 子どもと接する時間がどうしても短くなる
 - 平均的な発達の子どもと長時間接する機会がない
- プロセスを経ていない
 - 健診・遊びの教室…

47

父親を巻き込む

- 共同責任者と愚痴の聞き役はなかなか両立しない
 - どちらを求めるのか意識すること
 - 愚痴の聞き役は他に

48

父親を巻き込む

- まずは夫婦関係の修復を最優先
 - 「子どもを盾にとって責められている」と感じさせない工夫を
- 子どもと「楽しく」過ごす時間の確保
 - よい役割を父親に

49

祖父母を巻き込む

- 障害児者への支援の乏しい時代に生きてきた人たち
 - 頭が固いのは当たり前
- より時間をかけることが必要

50

祖父母への期待

- 育児そのものの担い手として
- 預かり、体験を増やす
- 家事の分担
 - 「手抜き」を見逃す
- 経済的援助
- 社会への働きかけ

51

祖父母からの支援の難しさ

- 祖父母の生まれ育った時代には、障害児・者への支援は、今ほど充実してはいなかった。
- 障害を隠し通すことのメリットは、今よりもはるかに大きかった。

52

家庭外のリソースの利用

- 子どものための資源
 - 保健・福祉・教育・医療……
- 家事援助のための資源
 - 家計の許す範囲で積極的に

53

地域の課題

- 資源の利用を促していくこと
- 資源の利用にスティグマや罪悪感を与えないようにすること
- 利用できる資源を地域の中で増やしていくこと

54

経済的な負担

- 自閉症の子どもがいると家計に毎年270万円の負担がかかる
 - そのうちの230万円は親の就労が妨げられるから
- オーストラリアの研究

家族の経済的な状況の改善は最優先課題

PLoS ONE, 9(9), e106552. <http://doi.org/10.1371/journal.pone.0106552>

55

家族に必要な余暇活動

- 家族自身のために
- 子どものために
 - 趣味や余暇活動は健康な大人の生活の基盤
 - 同じ趣味を持つ人のグループはASD者にとって本質的に治療的である (©片岡聡 自閉症当事者)
- 大人が趣味を楽しむ姿から学ぶこと

56

今日のお話し

- 発達障害とは
- 発達障害を持つ子どもの家族支援
 - マンパワーを集める
 - 知識とスキル
 - 気持ちの支え

57

知識の伝達

- 家族への支援の基本型
 - 正確な診断・特性の把握
 - 家族が理解しやすい伝え方

58

サイコエデュケーション (心理教育)

- 個別 (診療)
 - 心理士等による伝達も
- 集団
- 日本人には似合っている？

59

書籍の利用

- 選ぶのに困るくらい書籍はある
- あえて紹介するなら子どもの状態にあうものを



高機能自閉症・アスペルガー症候群
「その子らしさ」を生かす子育て
著 釘原 浩
監修 釘原 浩
中央法規出版

60

育児スキルの伝達

- 知識だけでは実践が難しい内容も
 - 子どもの行動変容の技術
 - 親のアンガーマネジメント

61

親子通園の課題

- 知識・スキルの伝達場所としては優れている……が
 - 父母への負担があまりにも過大である
 - 一年間（以上）の通園の負担に耐えられる家庭は多くない
- 短期間で効率のよいペアレント・トレーニング、ペアレント・プログラムの必要性

62

ペアレント・トレーニング



読んで学べるADHDの
ペアレントトレーニング
—むずかしい子にやさし
い子育て



ADHDをもつ子ども
お母さんの学習室



むずかしい子を育てる
コモンセンス・ペアレンティング・ワークブック

多くの効果を実証された療育技法には、ペアレント・トレーニングの要素が含まれている

63

ペアレント・プログラム

- 発達障害児の親向けに開発されたペアレント・トレーニングの基礎的な内容を元に、育児支援段階向けに開発
 - <http://www.rehab.go.jp/ddis/こんなとき、どうする？/家族支援/ペアレントプログラム/>
 - <http://124.146.219.82/j/file/message/parentprogram.html>

64

知識・スキル伝達の落とし穴

- 親への過負荷
 - 「方法があるならやらなきゃ」
 - 「あの子がやってるならうちも」
- 育児観のシフト、目標の設定方法の伝達がカギ

65

課題の優先順位

- 教えなければいけないことは、あまりに多い
 - でも大人の時間は限られている
 - 子どもの頑張りにも限界がある
- お互いのために、課題の整理が必用！

66

療育の優先順位

3段階にわたる作業から

最優先の課題

重点課題

今は「片目をつぶる」課題

本人や他の人が怪我をするかも
ひどく不快な思いをするかも
(高価な)物が壊れるかも

場合によってはペナルティを
使うことも考える

「歯磨き大作戦」
「貸して」月間
宿題キャンペーン

お約束をして、ご褒美も用意

食事中の姿勢
シャツの裾をズボンに入れる
言われる前に宿題をやる

いつかはできるようになるといいね

67

育児観のパラダイムシフト

- 「〇〇歳だから～」 「年長だから～」
- 「できるのはよいこと、できないのは悪いこと」
- 「働かないと恥ずかしい」 「自立しないと恥ずかしい」

68

「就学までに……」は禁句

- 「みんなはそうだけど、うちの子は違う」は受け容れられる訳がない。
- 就学までの課題は子どもによって違う。
- 聞かれたら「そんなものはありません」が基本の回答になる。

69

「できたら褒めましょう」の落とし穴

- 大人が完成や達成、勝利に関心があると子どもが勘違いすると、こじれが生じやすくなる。
- 大人は「挑戦と失敗が大好き」である振りをすることが無難。
- 取りかかり始めたら応援する。
 - できたときの報酬は本人の達成感、満足感でわりと事足りる。

70

理念への傾倒による呪縛

- 言葉を「字義通り」に捉える子ども達
- 「〇〇しましょう」
 - 多数派の子どもは上手に相対化して受け止める
 - それが難しく、ドグマになってしまう子ども達がいる

71

育児観のパラダイムシフト

- 「昨日より～」 「先月より～」
- 「挑戦するのがかっこいい」
- 「働くことと人生の楽しみが増えるよ」
「自立すると自由が増えるよ」

72

大原則

- 「できること」を目指すとかじれやすい
 - 目標は「やりたくなること」
 - 「達成」より「挑戦」
- 動機づけに着目した視点の変化を目指す

73

育児観のシフトは難しい

- お説教ではかわらない
- 「喪の仕事」の側面を持つ
 - 時間をかけた仕事になる
- 「気持ち」とともに支えていくことが必要

74

育児観のシフトは難しい

- 「発達障害のある子の親」への対応だけを変えようとしても、うまくいかない。
- 社会全体の育児観を変えていく必要性
 - 発達障害と「グレーゾーン」の子どもが20~30%いることがわかった時代にあわせるしかない

75

「見通す」知識

- 将来の暮らしの見通し
 - 医師から
 - 書籍から
 - 先輩から
- 知識を獲得するタイミングが大切

76

何をを目指すのか

- 歯磨きができる or 歯磨きがしたい
- 絵が描ける or 絵が描きたい
- 就労できる or 就労したい
- 自立できる or 自立したい
- 完成したい or 挑戦したい

77

今日のお話し

- 発達障害とは
- 発達障害を持つ子どもの家族支援
 - マンパワーを集める
 - 知識とスキル
 - 気持ちの支え

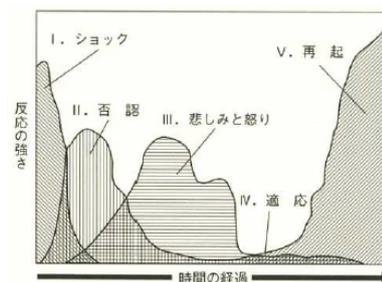
78

気持ちの支え

『子どもの特性はだいたいわかった。
どうやって対応すればいいかも、なんとなくわかった。
手伝ってくれる人も周りにいないわけじゃない。
でもね……。』

79

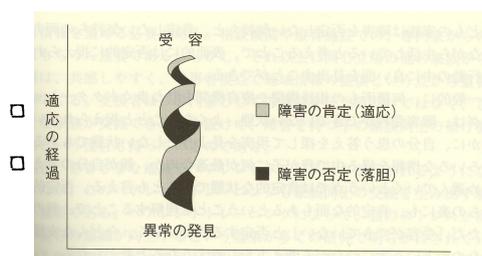
障害の「受容」



ドローター (Drotar ,et al.)

80

気持ちは揺れる



らせん型モデル (中田)

81

「専門家」による支援の限界？

- 専門家は問題解決と資源管理の責任を持つ
- 解決志向の支援の限界
- 共感的支援の困難

82

気持ちの支え

- 休息、余暇を積極的に勧める
- 愚痴を聞いてもらう相手、場所が必要
 - 家族、友人
 - ピアサポート
 - ペアレント・メンター

83

ピア・サポート

- 同じ立場の人同士によるサポート
- セルフヘルプ活動
- 医療、教育、福祉など幅広い分野で行われるようになっている

84

参考資料



ペアレント・メンター研究会公式ウェブサイト
<http://parentmentor.jp>

85

ペアレント・メンターとは

メンター (mentor) とは「信頼のおける相談相手」という意味
ペアレント・メンターは、親による親のための相談者です。



86

施策化と法整備

- 発達障害者支援体制整備事業
 - ペアレントメンターの養成 (平成22年～)
 - ペアレントメンターコーディネーター配置 (平成23年～)
 - ペアレントメンターの活動への支援 (平成30年～)
- 発達障害者支援法改正 (2016)
 - 『都道府県及び市町村は「発達障害者の家族が互いに支え合うための活動の支援」を行うよう努めなければならない』

87

地域における家族支援

- 家族への支援を (とりあえず) 要素にわけてみる
- 地域のサポート資源の情報を集めておく
 - 何が不足しているかを考えてみる
 - 確保するための方法を考えてみる

88

地域における家族支援

- 自立とは依存先を増やすこと
 - ©熊谷晋一郎
 - おそらくは家族支援も同じこと
- 家族が安心して地域を頼ること
 - 家族が自分の人生を楽しむこと
 - 子どもの「こじれ」を防ぐ決め手?

89